

救急車を呼ぶ！その前に・・・



■ 救急車を呼ぼうか迷ったときは、よく考えましょう

救急車は、最善を尽くして、現場に迅速に到着しようと努力しています。これだけ多くの出動件数の中には、残念ながら、本当に救急車が必要であったのかと疑問に思う事例もあります。

例えば・・・

「風邪をひいたとき」「歯が痛むとき」「突き指をしたとき」「首を寝違えたとき」

といった軽い症状の場合には、本当に救急車を呼ぶ必要があるのかどうか考えてください。

また、緊急性がなく自分で病院に行ける場合や定期的な通院などでは、タクシー代わりに救急車を要請することは控え、一般の交通機関を利用しましょう。

※判断に迷うときには、かながわ小児救急ダイヤル「#8000」（相談時間は毎日18時～24時）や「やまと24時間健康相談（0120-244-810）」で医療機関にかかるべきかアドバイスを求めてもよいでしょう。

■ どんなときに救急車を呼べばいいの？

- ・子どものけいれんが止まらない
 - ・呼吸が難しくなっている
 - ・意識がなくなっている
 - ・激しい出血が止まらない
 - ・激しい頭痛や腹痛を訴えている
- などです。

すぐに救急車を呼びましょう



119 番！

- ①119番をダイヤル「救急車をおねがいします」
- ②氏名・住所を教える。場所の目印になるようなものがあればそれも伝えましょう。
- ③子どもの症状を伝えましょう。持病がある場合は、病名とかかりつけ医を伝えましょう。

救急車を待っている間は

- ④健康保険証や母子健康手帳、診察費用、帰りの交通費を用意しましょう。
- ⑤まわりに人がいれば、救急車の誘導をお願いしましょう。

救急車が到着したら

- ⑥救急救命士の指示に従いましょう。
- ⑦日ごろ飲んでいるお薬があれば、伝えましょう。
- ⑧火元の始末と戸締りを忘れないようにしましょう。

参考) 総務省 消防庁